

「心の個性」

舞鶴市立城南中学校 1年 土橋 心夏

みなさんは、「LGBTQ」という言葉を知っていますか。LGBTQとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングまたはクィアの頭文字をとった言葉のことです。

世界では、こういった心の性を持った人々が増え続けています。それにともなって、LGBTQの支援を行う国や地域も増えているそうです。ですが、まだ、同性で結婚するのが禁止されていたり、差別、偏見があったりする国や地域がたくさんあります。つまり、世界の中には、苦しんでいる人や辛い思いをしている人がいるのです。だから、私は、LGBTQといわれる、性別とは異なる、心の性を持った人々が、その個性を発揮できるような世界にすれば、みんなが幸せに、共に生きることができると考えました。そのためには、どんなことが大切なのでしょう。

個性を発揮できる世界にしたいと思った理由は、同性で結婚することが禁止されている国や地域、差別や偏見があり、学校でいじめをされ、不登校になったり、苦しんで辛い思いをしていたりする人々がいるということが世界の中で起こってしまっている現状があるからです。

みなさんは「女らしく」や「男らしく」という言葉を聞いたことがありますか。これは私が実際に体験したことです。私は、野球をしています。その中でも、ボーイズリーグといって、同級生に、私しか女子がいないような珍しい環境でプレーしたり、物すごく日焼けをしていたりと、同じクラスの女子とは少し違って、男子のようなところがあります。そのこともあり、中学校の制服を選ぶ時は、ズボンとネクタイにしようと考えていました。しかし、母に「ちょっとぐらい、女の子らしくスカートにしてもいいんじゃない？」と言われ、女の子はスカートををはくべきなのかと思ったことがあります。みなさんは、「女だからこうしないといけない」、「男だからこうあるべき」と決めつけてしまっていないのでしょうか。一人一人が「女らしく」や「男らしく」という言葉に捉われずに、「自分らしく」を大切にすることで、心の個性が発揮されるのです。

また、LGBTQの人々が、学校で困っていることは、いじめや差別、制度、設備の不便、教職員の理解不足などで、とても苦しんでいる生徒がいるそうです。具体的には、カミングアウトによる周囲からの差別や偏見、トイレの問題があるそうです。それに加えて、授業では、異性愛を前提とした教育、男女別の活動や制服のような問題もあるそうです。もしかしたら、私たちと同じ中学生でこのような問題に悩まされている人たちが近くにいるかもしれません。だから、どのような環境でも、様々な心の個性を持った人々が、安心して心の個性を発揮できるようにするには、「男女別」という概念をなくし、「みんな」という雰囲気を作り上げていくことが大切なのです。また、周囲の理解も大切になってくるのです。

このように、「男らしく」や「女らしく」に捉われずに、「自分らしく」生きることが一人一人の心の個性を発揮することになるのです。しかし、まだ認めていない人もいます。そういう人は、認めなくてもいいと思います。ただ、それを口に出したり、態度に出したりと、いじめや差別という形で表さないでほしいです。言葉というものは、選び方次第で凶器にもなります。ほんの少しの悪口が、その人にとっては、大きな傷となり、一生残るかもしれないことを忘れないでください。

私たちは、心の個性を発揮できる多様性の時代を生きています。だからこそ、当たり前や普通という考えを捨て、幅広い視点を持ち、広くて暖かい心を身につけることが重要です。性別や見た目だけで判断するのは、やめましょう。どんな個性を持っていたとしても、世界にたった一人だけの、かけがえのない人です。

全ての人が心の個性を発揮し、認め合いながら、「共に生きて」いける世界になりますように。